



大國の子

R1. 7. 4 発行 校長：戸澤智紀

「心豊かに、知性を磨き、たくましく主体的
に行動する子どもの育成」

～めざす子どもの姿～

- 思いやりの心を持ち、助け合う子ども
- よく考え、自ら学び 表現する子ども
- 心身ともに健康で、進んで行動する子ども



チャレンジした「児童総会」



5月24日（金）令和初の児童総会が行われました。これまでの児童総会は事前に児童総会の資料を配布し、クラスで話し合い、クラスの意見をまとめて「話し合う」というより「発表し合う」時間の方が多という児童総会でした。時間の関係もあり、何年も前からそのような形をとっている学校も少なくありません。しかし今年度は、児童会主任を中心に教職員一同と、児童会会長を中心とした児童会本部役員が、3年生以上による児童総会の改革にチャレンジしました。



これまでとは違い、クラスでの話し合いは行わずに、その場で個人個人の想いをぶつけ合う、という児童総会にチャレンジをしました。

質問が事前に用意されるわけでもなく、答えの内容を用意することもできず、まさに「真剣勝負」の話し合いです。児童会本部や議長、さらには委員会の委員長は「ドキドキしながら」ぶっつけ本番で迎えます。

さまざまな議題について討議されましたが、何ととっても盛り上がったのが、最後に話し合われた「チャイムを鳴らす・鳴らさないについて」です。

白熱した激論バトルが繰り広げられましたが結局決着がつかないまま終わりました。



翌日の校長室に、児童会会長と副会長が来ました。そして「明日の休み時間に臨時児童総会をして、『チャイムについて』最後まで話し合いたいです。校長先生は出ていただけますか。」とのことでした。

翌日、開かれた話し合いでは、子供たちばかりでなく教師も参戦し、その話し合いは白熱し、本当に素晴らしい意見が数多く出されました。

時代が変わっていく中で、人の心も変化し文化も進歩していきます。そうした中で学校教育には「変えていいもの」・「変えなくてはならないもの」・「変えてはならないもの」があります。教育界は現在「主体的・対話的で深い学び」を中心にして授業を組み立てる時代の流れとなってきました。

秋には「体育の授業公開」が行われる予定ですが、「熱く語り合う児童総会」と「燃える児童会本部役員の姿」も公開してみたくなるほどでした。



(発言する児童)



(教師も発言)



(的確な対応の議長)



～あいさつ運動～

6月18日（火）から21日（金）まで「あいさつ運動」を5校（大國小・上条中・国母小・石田小・南西中）で同時に取り組みました。



本校でもPTA役員の皆様、青少年育成協議会の皆様、そして当番の学級児童が正面玄関・児童玄関に立ち、いつもより多い人数で登校してくる児童を迎えました。あいさつされることで、あいさつの大切さを実感している子どもたくさんいました。この期間、地域において登校してくる子供たちの様子も見ましたが、いつもより元気なあいさつをしようと意識していたように思います。

今年度児童会では、大きな声で元気よく、というテーマを掲げて取り組んでいます。「元気がないとあいさつが出来ない」という反面、「元気がないからあいさつをして心を明るくする」という意識は重要です。

自分の心を自分で元気にすることも生きていく上では大切です。依頼心だけでは幸せにはなれません。あいさつをして友達を明るくしたその光の照り返しで、より一層気持ちよい一日がスタートできるものです。

ご家族では朝起きたときに「おはようございます。」のあいさつはいかがでしょうか。

一日のスタートは先生や友だちの前に、家族の出会いからです。一日一日を大切にスタートするためにも、さらにあいさつについて取り組んでまいります。



引き渡し訓練

6月3日（月）には引き渡し避難訓練が行われました。長時間待機する児童もなく、無事に全員の児童を引き渡すことができました。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。当日は「見守り隊」の方々もお越しいただき、ご協力頂きました。

東日本大震災直後は、どの学校でもどこの自治体でも非常に緊張感をもって取り組んでいた引き渡しや避難訓練も、月日とともに形骸化しつつある、と過日報道がされていました。

人は幸せになるために、苦しいことや辛いことを忘れて生きていけるようにできているのかもしれませんが。しかし苦しみや悲しみに包まれた各地での災害を訓練によって思い出して、二度と同じ思いをしないように日頃から備えておくこと、そして何事もない日々感謝することも幸せに生きていくために必要なことです。

月日の経過とともに心に芽生える油断こそ大敵です。



子ども110番の家への感謝

登下校ばかりでなく、日々の生活の中で地域の子供たちを守るために、県内各地に「子ども110番の家」と称してご協力頂いている「お店」や「ご家庭」が数多くあります。子供が困ったときに、近くに助けを求められる場所があることは、まさに安心して登校したり遊んだり出来ますし、保護者の皆様ばかりでなく、学校としても深く感謝すべきだと思っています。

先日、ある校外で行われた会議で出た話ですが、ある地域では、その「110番の家」について下校途中に「トイレを貸してください」が一番多いそうです。生理現象ですから快く受け入れてくれていますが、問題になっているのはその使い方だそうです。トイレを借りて、汚したままお礼も言わずに行ってしまうようで、そうした案件は少なくないようです。トイレを借りたら、お礼を言うのはもちろんのこと、家に帰って報告すること。家庭では「早寝・早起き・朝ご飯」、それと「朝うんち」を心がけて頂くことが大事だ、という話になりました。大國小でもぜひ心掛けていきたいと思いました。



子供たちの日々の健康面のチェックと、日夜支えてくださっている地域の皆さまへの感謝の気持ちを教師や保護者が忘れては、心身共の子供たちの育成に繋がりません。子供たちへの指導を学校と家庭の両面で行うことが大切だ、と思いました。

